・・若者が
自分らしく
歩けるように

2022

ANNUAL REPORT

2022年度年次報告書

日頃より
応援してくださる
みなさまへ

Tochigi
Youth
Supporters
Network

Mission ミッション

若者の力を
活かして、
地域の
課題解決／活性化を
加速させる

アフターコロナを見据えた組織の在り方、事業の変容に挑んだ 2020～2022 中期計画 の最終年。これまでリアルな関係性の構築やリアルな体験による若者の自己成長に取り組んできましたが、オンラインによる繋がりを求められた社会の中で、新たな事業モデルづくりに挑んで参りました。地域のニーズと若者の意欲を繋げるコーディネート、社会課題に対して自ら動いていく若者の支援事業、ソーシャルプロジェクト支援領域は、新規の取り組みが増加いたしました。また、若者と地域をつなぐ『あしかもメディア』の開設、空き家等を活用した若者と地域がつながる場づくり、他地域でのコーディネーターチームの育成、会員･支援者へのヒアリング等によるコミュニケーションに注力いたしました。また、新卒スタッフが合流したことで組織が若返り、若者との距離がより近づきました。加えて、長期インターンシップ生が 11 名（3 年間の平均では 9 名 / 年、コロナ禍以前 3 名 / 年）参画し、コロナ禍で揺れる若者の気持ちを近くに感じながら事業を推進して参りました。一方で、社会的期待が高まり質を求められる業務が増え、価値の創造に注力した結果、収支管理や会員管理体制とのバランスの悪さが課題となりました。来年度は、次期中期計画の一年目。新たな業務を仕掛けつつ、同時に組織のマネジメント力強化および社会を動かすための広報にも力を入れて参ります。

代表理事 岩井 俊宗

スタッフ

代表理事 岩井 俊宗（いわい としむね）

宇都宮市出身。2005 年宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして市民活動支援機関に入職。NPO・ボランティア支援、個別 SOS に従事。2008 年より若者の成長機会創出と社会課題の解決に向けて持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの加速を目的に当会を設立し、2010 年に NPO 法人化。2 児のパパ。

事務局 篠原 悠太（しのはら ゆうた）

宮崎県宮崎市出身。大学進学を機に栃木県に移住。在学中から授業やイベント運営等でユースと関わり、インターンシップを経て「もっと若者が挑戦しやすく可能性が育まれる社会」を目指してスタッフとして合流。自主事業である iDEA→NEXT 等の若者育成事業を中心に業務を行う。Vtuber、ゲーム、漫画、アニメ等、趣味はサブカル系。

事務局 森谷 真依（もりや まい）

真岡市出身。法政大学でメディア社会学について学ぶ傍ら、離島ボランティアや廃校・古民家再生インターンシップでの活動を通し、「地元に貢献したい」という想いが募り大学 4 年時にＵターン。「若い人の一歩を後押しできるメディアを創りたい」という想いのもと 2021 年 4 月にスタッフとして合流。現在は『あしかもメディア』のライター・広報・デザイン担当として活動中。

理事 古河 大輔（ふるかわ だいすけ）

小山市出身。仙台、名古屋、南米ボリビアと各地を転々とした後、地元へ。立ち上げ期から参画し、地域の課題解決と挑戦する若者たちの生態系づくりに取り組む日々。複数のチームで、仲間たちと地域に必要なことや地域を楽しむことをあれこれと企てている。その他、一般社団法人カゼトツチ 代表理事等、3 足のわらじをはいた複業ワーカー。

事務局 中山 裕貴（なかやま ひろき）

さくら市出身。埼玉県の大学で行動経済学を専攻し、学外でもイベントの企画運営や学生団体運営をする。新型コロナウイルスの影響で大学 4 年生時に栃木県に Ｕターンし、卒業後の進路について思案するなかで当会に出会う。その後、約半年間のインターンシップを経てスタッフとして合流。好きな食べ物はバクチーが入っていない生春巻き。

事務局 渡邊 貴也（わたなべ たかや）

宇都宮生まれの那須烏山人。市民の社会参画・政治参画意識向上や市民プロジェクト支援が関心分野。那須烏山市でも複数の市民プロジェクトに参画している。2018 年にとちぎユースを退職したが、2022 年からまさかのＵターン再就職を果たす。趣味はレザージャケット収集とウイスキー。

Vision ビジョン

それぞれの強みや違いを活かし、
つながり合い、
主体的に未来を創る
行動にあふれる
いきいきとした社会

About us 私たちについて

私たちは、栃木県をフィールドに若者の挑戦と成長を支援しながら
地域の課題解決 / 活性化を目指す取り組みを実践しています

自分に自信が持てない若者から

社会に新しい価値を生み出そうとする若者まで

みんなに挑戦と成長の機会を

７１組もの
挑戦者を
輩出

事業紹介

新型コロナウイルスの影響が徐々に収束していった 2022 年度。年度の当初にはオンラインのプログラムが多かったものの、後半になるとリアルのプログラムにも力を入れられるようになりました。今年度は、5,634 人（延べ人数）の若者たちに 15,301 時間の活動時間を提供いたしました。ここでは、代表的な事業をご紹介します。

活動延べ人数 300 名　活動時間 902 時間

栃木県地域づくり担い手育成事業

地域活動の将来の担い手育成や地域づくり団体の安定的な運営の基盤づくりを目指すプログラムです。県内の地域づくり団体と、高校生から 20 代社会人までの若い世代をマッチングし、約半年間かけて『知る→実際に体験する→自分から動いてみる』というプロセスで地域づくりに参画していきます。2022 年度は 24 名の若者が参加し、「地域づくりにはつながりが大切であることを学んだ」「将来のビジョンが変わった」等の声をいただきました。また、受入団体からは「学生を中心に多くの方と関わることができた」「中には定期的に活動に参加してくれている方もいる」という声をいただきました。半数以上の参加者が地域づくりに取り組んだ経験がないにも関わらず、多くの参加者がプログラム終了後も団体に関わり続け、地域づくりの実践者となっています。

※栃木県総合政策部地域振興課受託事業

受入団体の声

一般社団法人えんがお 代表理事 濱野 将行（はまの まさゆき）さん

ユースさんに繋いでいただき、大学生を中心とした沢山の学生が当法人の活動に参加してくれました。中にはそのまま定着して定期的に活動に参加してくれている学生もいます。混沌とする社会の中で、社会課題は日々生まれ続けています。社会の構造を知り、そういった社会課題をともに考える仲間をつくり続けているユースさんの活動は今後より必要性を増していくと思います。栃木県を代表する NPO 法人であるとちぎユースサポーターズネットワークさんをこれからも応援しています。

参加者の声

鈴木 英希（すずき ひでき）さん

私はこのインターンシップに参加して、「地域づくりには人とのつながりが大切である」ということを学びました。活動を通して、様々な地域の方々と交流することができ、自分も地域に貢献しているという実感が湧きました。今回初めてこのような地域に直接関わる活動に参加し、自分にとって今後の大きなキャリアアップにつながったと思います。

依頼件数 4 件　参加者数 29 名　活動時間 87 時間

NPO を活用した 地域コミュニティ助け合い機能強化事業

高齢化が進む宇都宮市西地区で、地域の小中学生・高校生・大学生が高齢者の暮らしの困りごとを解決する仕組みづくりと実践を行いました。依頼内容は草むしりや窓拭き等で、総依頼件数は 4 件。これまで一般 5 名、大学生 15 名、高校生 1 名、中学生 4 名、小学生 4 名、幼児 2 名、計 29 名が参加しました。子どもからは「おやつが貰えたりおばあちゃんとお話できて楽しい」という声、依頼者からは「地域の子どもが庭に来てくれることが楽しみで仕方ない」という声をいただいており、『高齢者のできなかったことを子どもが助ける』という仕組みが双方から喜ばれています。

※栃木県県民文化課受託事業

参加者数 770 名　先生数 33 名　企画数 42 個

運営サポーター 54 名　活動時間 1029 時間

シモツケ大学 公共空間利活用社会実験（石橋エリア）事業

公民連携によるまちづくりを推進する地域人材を育成・確保することを目的に立ち上げた『シモツケ大学』では、下野市のまちや人をテーマにした授業やイベントを開催し、普段暮らしているまちに一歩踏み出す場、まちで挑戦する場をつくっています。舞台となるのは、まち全体。地域の賑わい創出に向け、これまでまちなかにある広場や使われなくなった空き店舗等、まちの至る所を教室に様々な参加型授業や公共空間を活用した社会実験、新しい取り組みを始めたい方のアイデア相談会を行ってきました。下野市の地域おこし協力隊やまちづくり会社等と連携し、これまでの 3 年間で 770 名が参加し、33 名が先生になり、42 個の企画が実現し、54 名の運営サポーターが生まれました。今後も事務局だけではなく、市民が参画して運営できるような仕組みをつくっていきます。

※下野市総合政策課受託事業

活動延べ人数 68 名　活動時間 568 時間

下野市関係人口創出事業

市内の活動人口と関係人口予備軍を有機的につなげることで、将来的な移住や地域内外の活動人口の増加を目指し、①主体的にまちに関わる人たち（関係人口・活動人口）を増やすこと②「下野市の力になりたい」「地域に関わりたい」という想いを受け止める中間支援組織＝コーディネートチームの立ち上げに取り組みました。都内での交流イベントや地域のプロジェクトに参画するツアーを実施した他、大学生インターンシップを受け入れるプログラムの実施、下野市の地域おこし協力隊を中心とした中間支援組織『NPO 法人青二才』の立ち上げおよび運営サポートを行いました。今後は、NPO 法人青二才が地域での活動を続けるサポートを継続していきます。

※下野市総合政策課受託事業

下野市で若者と地域のコーディネートを担う“NPO 法人青二才”の設立をサポートしました！

NPO 法人青二才 代表理事　鈴木 祐磨（すずき ゆうま）さん

市内の「イチ」プレイヤーとして参加するところからスタートした本事業。地域の中で人と人とをつなぐ意味や可能性を、様々な事例や経験者から学び、実際にその役割を担うところまで関わってきました。そのお陰もあり、「このまちで若い世代が活躍する場づくりをしたい」というビジョンを描くことができ、また活動の中で培った方々と協力しながら団体の立ち上げを決断し、法人化というスタートを切ることができました。

青二才が輝く社会を、このまちから

若者がもつ無限の可能性を信じる仲間とともに、NPO 法人青二才は立ち上がりました。
私たちは、未熟ながら進み続ける「青二才」な若者が輝くための仕掛けづくりをしていきます。

NPO 法人青二才の WEB サイトはこちら

GENBA CHALLENGE

コワーキングスペース周辺地域の魅力発信！周遊マップ“たべっと”作成＆交流事業創出プロジェクト

“地域とつながり未来をつむぐベースメント”がコンセプトのコワーキングスペース『áret』の周辺の魅力的な店舗を取材発信することで、áret 利用者と地域の人や団体が交わりあいながら未来を創造する風土を醸成するプロジェクトです。3 名の大学生がインターンシップに参画し、áret を基点とした周遊グルメマップ“たべっと”の制作や交流イベントの企画運営を行いました。インターン生からは「パンフレット制作において、取材交渉やデザイン制作等、学びにつながる部分が多かった」という声を、áret のオーナーである井上氏からは「インターン生だけでなく私たちも共に働く喜びを新たに確認できた」という声をいただきました。

受入者の声

光琳寺住職 / コワーキングスペース áret オーナー 井上 広法（いのうえ こうぼう）さん

私たちは孤独な働き方から共に働くことへシフトすることを目指し、コワーキングスペース áret を運営しています。人が絆を深めるには、共に食事をすることが鍵となります。それを叶えるために、今回、大学生のインターンに対し、áret 周辺の飲食店を巡る情報マップ「たべっと」の作成を依頼しました。このプロジェクトでは、インターン生が飲食店への協力要請、現地調査、インスタライブ配信、試食会の開催、そして最終的なマップの作成という一連の作業を体験しました。プロジェクトが完了した時、インターン生だけでなく私たちも、「共に働く」喜びを新たに確認できたと感じています。このような有意義な機会を得られたことに深く感謝しています。

インターン生の声

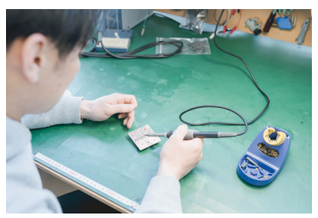
宇都宮大学 地域デザイン科学部 2 年 阿部 遥香（あべ はるか）さん

「取材をしてまとめる」と口で言うのは簡単ですが、これを達成する過程にいくつもすべきことがあって、想像以上に大変でした。その過程の中で、外部の方との連絡のやり取りや取材の申し込み方法等が勉強になりました。パンフレット作成においては、デザインのプロの方から貴重なアドバイスをいただきながら取り組むことができ、貴重な経験になりました。“情報を伝えたい相手”がいるモノをつくる場面で、こちらの意図が伝わる工夫や情報の取捨選択の仕方等、今回学んだことを今後に活かしていきたいです。

掲載記事件数
93 件

あしかもメディア

あしかもメディアとは、“若者 × 地域＝ソーシャルグッド”をテーマに『若者と栃木の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴト』をつないでいく県内唯一の総合地域メディアです。運営に携わるメンバーのほとんどが 10〜20 代であることを活かし、『栃木県の魅力を若者視点でキャッチ・編集・発信できる』『若者に響く編集・発信ができる』という特長を掲げ運営を行っています。SNS のフォロワー層は 39 歳以下の若者が多く、届けたいターゲット層に主に情報を見ていただいています。また、延べ 42,884 名もの若者とつながりがある当会が運営を担っているため、若者にダイレクトに情報を届けることができるという強みがあります（2023 年 3 月現在）。月刊 pv 数はおよそ 5,000〜6,000 で、求人マッチングやプログラム参加に関する声、掲載依頼者様からの感謝の声を多数いただいています。2022 年度は 10 名のインターン生とともに 93 記事を執筆・掲載し、読者との交流会を 2 回開催しました。



ローカルメディアの運営に携わりたい、取材・記事制作を経験してみたい、
栃木県の魅力を発信したい若者求む！インターン生募集中！ 詳しくは P.09-10 へ

WEB サイトはこちら

2022 年度
プログラム

社会を良くする
アイデアを
形にしよう

iDEA→NEXT

iDEA→NEXT（アイデアネクスト）とは…

社会を良くするアイデアを形にするプログラム『iDEA→NEXT』。このプログラムでは、挑戦者のアイデアの実現を当会が持つノウハウやリソースの提供、メンターからのフィードバック等でサポートします。2022 年度は毎月 1 回の特別講義を開催し、挑戦者の活動を後押ししました。また、本プログラムは応援していただいている皆様からの寄付金で成り立っていることも特徴の一つです。2022 年度は、およそ 70 万円のご寄付をいただき、挑戦者に渡す活動支援金や講師謝金として使わせていただきました。

1 キックオフミーティング / 卒業生サミット

6 月 12 日にキックオフミーティングと卒業生サミットを開催しました。キックオフミーティングでは、今後のプログラム内容の確認や挑戦者によるアイデア発表を行い、卒業生サミットでは、iDEA→NEXT 卒業生から挑戦者に向けてアイデアへのフィードバックや挑戦することへのアドバイスをいただきました。

2 中間発表

10 月 1 日に中間発表を行いました。挑戦者たちは 6 月から 10 月までに実施したこと及び今後の実施予定について発表しました。発表後は、来場者と挑戦者で円になり、今後の活動に対するフィードバックをいただきました。

2022

3 ファイナルプレゼンテーション

2023年1月21日、iDEA→NEXTの締めくくりとなるイベントであるファイナルプレゼンテーションを開催しました。前半は挑戦者によるプレゼンタイム。この時間では挑戦者からのプレゼンだけではなく、コメンテーターからアイデアの意義や必要性をコメントいただくことで、発表をより深く理解することができました。後半は、来場者からアイデアについてフィードバックをいただき、挑戦者が今後の活動に想いを巡らせる時間となりました。プログラム終了時には表彰式を開催。iDEA→NEXT の特別賞である栃木銀行賞受賞者は、障がい者のキャリア支援に着目した谷口 沙知子さんとなりました。

コメンテーターのみなさま

株式会社キッズコーポレーション 代表取締役 **大塚 雅一 氏**

株式会社ワークエントリー 宇都宮営業所所長 **野崎 千晶 氏**

合同会社リビングアーティスト 代表 **河合 明子 氏**

光琳寺住職 / コワーキングスペース áret オーナー **井上 広法 氏**

特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房 理事長 **安藤 正知 氏**

4 月一講座

月に一度、オンラインにて集合し、ファシリテーションやチームビルディング、ビジョン・ミッション・バリュー、情報発信等について学びました。県内で活躍されている先輩方からの講義は、挑戦者の活動にプラスになりました。

月一講座では、以下の方々に講義をいただきました

7月
「リーダーシップとチームビルディング」
講師：NPO法人トチギ環境未来基地 代表理事 塚本 竜也 氏

8月
「ファシリテートと合意形成」
講師：宇都宮大学准教授 石井 大一朗 氏

9月
「事業のつくり方、ビジョン・ミッション・バリュー」
講師：当会代表理事 岩井 俊宗

11月
「提案力」
講師：一般社団法人えんがお 代表理事 濱野 将行 氏

12月
「事業と資金計画」
講師：ビジョナリーサポート代表 山下 典江 氏

iDEA→NEXT2022 卒業生
『みらいのい～ばしょ』代表 大鹿 哲太（おおしか てった）さん

iDEA→NEXT に参加するまでは、解決したい課題がある一方で自分ができること・すべきことについて分からない状態でした。そんな時にプログラムに参加したことで、やるべきことを整理でき、活動をスタートさせることができました。また、事務局の方が専属で活動を見守ってくださったので、困ったらすぐに相談でき、本業に従事しながら自分のペースで活動することができました。最終プレゼン終了後には様々な方からボランティアの協力や寄付金をいただき、さらに活動をステップアップさせることができています。「想いはあっても何をしたらいいのか分からない」。そんな方にこそぜひ参加してほしいプログラムです。

挑戦者のアイデア

※2023年1月時点のアイデアです

地域 × 若者 = 無限大

若者があした挑戦できる社会をつくることをミッションに、学生が地域で活躍できる場のコーディネートを目指しています！現在行っているのは、SNS プラットフォーム“あしたまた逢える村”の構築、シェアハウス“あしたまたハウス”の準備、そして地域実践型自己内省プログラムの企画設計です。

場所に囚われない若者のセーフティーネット

ネグレクトの家庭環境にいる若者の心のケアをしている団体です。ネグレクトの過程で育った子は、大人になってからも当時の経験に苦しめられるという大きな課題があります。だからこそネグレクトの家庭で育つ、また育ってきた若者の心のケアをする必要があり、そのような若者が自身のありのままを受け入れてくれる存在に出会うことで心のケアにつながると考えています。「苦しんでいる若者たちが、少しでも楽に生きられるようになってほしい」。その想いに共感する仲間とともに那須塩原市及び宇都宮市を中心に活動しています。

上三川ワクワク women's プロジェクトわたしじかん

上三川町在住、出身の女性が中心となり活動しているコミュニティです。気軽に参加できる「ほめほめお茶会」、「ワタシじかんマルシェ」を企画運営中です。2023 年春には、女性のゆるやかな起業についての講座開催を視野に入れて準備中です。女性が「ワタシ」として様々な活動が生まれやすい環境をつくっていきます！

宇都宮大学生が地域の子どもたちを対象に「楽しい英語」を無償でお届け！

宇都宮大学の学生が中心となり、子どもたちがイベントやゲームを通じて異文化に触れながら「楽しく」英語を学べる場を提供しています。これまで、小学校での授業や、空き家、コミュニティセンターでのイベントを開催するだけでなく、フリースクールでも活動させていただきました。子どもたちにはテストのために英語を学ぶのではなく、英語でコミュニケーションを取る楽しさを知って欲しい、そのような想いで活動しています。

宇都宮 100 人カイギ

宇都宮の地域活性化に繋がる活動を行うため、事業開発、ライフプランナー、エンジニア、人材開発と幅広い職種のメンバーでディスカッションしながら活動しています。宇都宮の StartupWeekend や Open Session Friday 等で出会った宇都宮をゆさぶる多種多様な異能主を繋ぐためのプラットフォームを創っていきます。

障がい者の進路先開拓

障がいがある方の支援業務に携わる中で、障がいがある方の進路選択肢の少なさを課題だと感じてきました。特に、栃木県では、近年社会の認知が広まってきている精神障がい・発達障がいの方に対する進路サポートが十分ではないと感じています。現在、「動画」を活用した課題解決に向けての可能性を模索中です。障がいがあっても、その人だからこそできる“何か”がある。その“何か”を活かせるような仕組みづくりを目指しています。

キャリ活

RIOT（ライオット）はキャリア教育事業の立ち上げに取り組んでいます。高校生が社会人へ相談できるキャリア相談会の開催と、両者がオンラインでマッチングしてキャリア相談ができるアプリ開発を行う予定です。メンバーである私たち二人は山形県の大学の同期であり、学習支援を 6 年間実施してきました。その経験の中で子どもたちがキャリア設計の際に、自己理解しきれていないことによるもどかしさがありました。次世代の子どもたちが『自分の意志や可能性を知り、解放する』ことができるよう全力でサポートしていきます。

当会と関わる若者をご紹介！

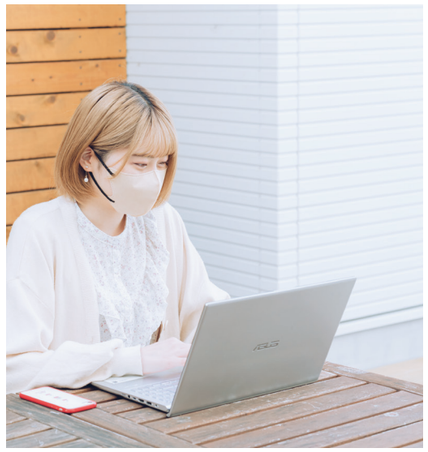
インターンシップを行う学生さんにお話を伺ってみました

interview

「困っていたら手を差し伸べてくれる」そんな素敵な環境で、日々成長を実感しています

宇都宮大学 地域デザイン科学部 2年生
佐々木 美海（ささき みうみ）さん

きっかけは、「やりたいことを見つけたい」という想い



2022 年 10 月より、当会が運営を担う『あしかもメディア』のライターとして活動しています。取材を通して記事を執筆することはもちろん、カメラマンとして他ライターの取材先に同行することもあります。活動を始めた当初、私は大学２年生で、周りには学外で活動を行っている人であふれていました。一方で私はまだやりたいことが見つかっていなかったので、「新しいことに挑戦してみたら興味・関心分野が見つかるんじゃないか」と思いつつも、何から始めたらいいのか分からなかったんです。そんなとき、大学の授業であしかもメディアの運営を行う方に取材する機会があり、そこで活動への参画の提案をいただき、「やってみたい」という想いが芽生え活動することにしました。

新しい挑戦を経て、知らなかった自分に出会っていく

インターンシップを通して、知らなかった自分の一面に出会うことができました。例えば、私は初対面の方と話すことに苦手意識を持っているため、これまで不必要に話しかけたりすることはせず、無意識にコミュニケーションを避けていた部分がありました。故に「初対面の方と話すことはなぜ苦手なのか」と深く考察することはなかったんです。でも日頃より様々な方が出入りするとちぎユースサポーターズネットワークでインターンシップを行う中で、「自分から話を広げることが苦手で、そこで生まれる気まずい状況に耐えられないんだ」と気がつくことができ、「相手の話をしっかり聞いて気になったワードを深掘りしてみよう」と苦手を克服するための対策を考えられるようになりました。『何事にも取り組んでみる』という経験を重ね、好きなことや得意なこと、苦手なことなど、自分の特性について少しずつ分かるようになり、日々自分についての理解が深められていると感じています。

「意見する」という苦手なことを「相手と向き合う」というポジティブな意識に転換

インターンシップを経て実感している自身の変化がひとつあります。それは、『自分の考えを相手に伝えることはとてもポジティブな行為だと思えたこと』。「相手が嫌な気持ちになってしまうんじゃないか」という懸念が強く、思っていることを発言することが元々苦手でした。そのため、インターンシップを始めた当初は他ライターの記事を添削する際にも指摘できず、意見を言えずにいました。でもいざ自分が記事を執筆したとき、他ライターの方が一つひとつ細かく丁寧に添削してくださり、頑張ったものに対して全力で応えてくれているという姿勢にとても感動したんです。それまで意見するということにマイナスイメージを抱いていましたが、「意見するということは、本気で相手と向き合っている証拠。むしろプラスのことなんだ」と思えるようになりました。そこから意識がガラリと変わり、「こうするともっと良くなるかも！」などと積極的に思ったことを発言できるようになりました。

迷ったら、「とりあえずやってみる」

これから本格的に就職活動が始まります。活動を経て、興味・関心分野が広がり、「良いもの（魅力）を伝える仕事っていいな」と思うようになりました。将来の選択肢が増えたので、様々な職種を見てみようとわくわくしています。新しいことに挑戦するときには、怖さや不安はつきものです。ただ、そこで悩んでやらないよりは、実際にやってみることで分かることや見える世界は必ずあると学びました。もし合わなかったら辞めればいいし、楽しかったら続ければいい。そのくらい身軽な気持ちで様々なことに挑戦していく中で、知識量が増え、いつか「これだ！」と思える人や活動、職種に出会えるかもしれない。興味・関心や得意・不得意が分かるだけでも得られるものはとても大きいので、「迷ったらとりあえずやってみる」ということを大切に、これからも自分らしく歩んでいきたいです。

私たちと一緒に、最初の一歩を踏み出してみませんか？

とちぎユースサポーターズネットワークは、今のあなたに合わせたプログラム・インターン・機会を提供します。法人設立から延べ 42,884 名もの大学生や若手社会人等の若者と関わりがあるなかで感じることや課題を、事業の重要な要素として取り入れながら活動しています。日々若者の声を聞きながら活動している私たちだからこそできることがあります。挑戦したいことがある方も、悩みがあって中々前に進むことができない方も、まずはあなたのお話を聞かせてください。ぜひ興味のあるものから一緒に一歩を踏み出しませんか？

詳しくはこちら

応援者の声

Go for it

沢山の応援メッセージ、ありがとうございました

「とちぎに輝く若者の力と地域の未来」

「若者と地域」というテーマを真摯に捉え活動するスタッフのみなさんに、深く感銘を受けました。若者の可能性を引き出し、彼らが夢を追い求め成長することは、地域全体の活性化につながります。これからも若者の力を信じ、彼らの夢を応援し続けてください。栃木県に素晴らしい未来が広がりますように。頑張ってください！

株式会社セレクティ　IT 事業部 部長
赤羽 敦史（あかば あつふみ）さん

「面白い人とつながれる場所」

漠然と「地域で何かしたい」と思っていた時、大学教員の紹介でユースに出会いました。まだ何をしたいのかが定まっていない中、スタッフのみなさんと対話を重ね、様々なことに挑戦しています。その中で地域のプレイヤーにお会いする機会が多く、「こんなこともあるんだ！」「こんなやり方もあるんだ！」と圧倒される日々です。本気で挑戦する人を全力で支えるユースを、これからもずっと応援しています！

帝京大学 経済学部 有田 和貴（ありた かずき）さん

「熱い想いをもった人とつながれるコミュニティ」

GENBA CHALLENGE への参加を通して、「働くってこんなにもワクワクすることなんだ！」とリアルな気づきを得ることができました。エネルギーを持て余して色々と活動していた自分が、同じような想いをもった熱い仲間と出会えた場所がユースです。これからも栃木の若者を支えてくれているユースを、全力で応援します！

会社員・元 GENBA CHALLENGE 参加者
大野 智成（おおの ともなり）さん

「挑戦を後押ししてくれる人と場所」

ユースとの関わりは主に iDEA→NEXT でした。アイデアを伴走してくれるプログラムは栃木県内ではユースが先駆けだと思います。「自分のアイデアなんてどうってことない」と思っていたのですが、ユースの人と環境に後押しされて挑戦してみようと思い、今に至ります。ここで培ったマインドが実生活にダイレクトに生きていて、出会えて本当に良かったと思う毎日です！

株式会社エンターテイン 小川 紗理奈（おがわ さりな）さん

「優しさと強さ」

第一子を出産後、人生や仕事の価値観が一変し、社会性を保ち地域に貢献する新しい生き方を模索しているときにユースさんの活動に参加しました。そこで、大きな一歩を踏み出す勇気をいただきました。それからおよそ 7 年ほど関わり続けています。ユースさんのことは命の恩人のような存在だと感じており、感謝してもしきれません。これからもユースさんの活動を応援し続けていきます。

合同会社リビングアーティスト 代表社員
河合 明子（かわあい あきこ）さん

「若者に本気で寄り添ってくれるまちの財産」

大学では受け止めきれない学生の起業やまちづくりへの意欲に丁寧に寄り添い、沢山の実践の機会を提供してくださる。そうした信頼できる大人たちがいる NPO 法人だからこそ、「ユースに相談してみてごらん」と、安心して学生たちを地域社会へ送り出すことができました。ユースは“まちの財産”だと思います。

福岡工業大学 教養力育成センター 助教
（元宇都宮大学 社会共創促進センター）
坂本 文子（さかもと ふみこ）さん

「多様性を受け入れ一人ひとりに寄り添う団体」

個々の違いを受けとめてくれるあたたかな環境で、地域活動を行う様々な方とつながり関わるための機会を沢山いただいています。また、若い方のリアルな声が入ってきやすい団体なので、若い方ひいては地域社会の現状を知ることができ、日々勉強させていただいています。“人に寄り添う”という良さを活かしつつ、これからも頑張ってください！

高根沢町役場 税務課 正田 大輔（しょうだ だいすけ）さん

「素敵な出会いがある団体」

ユースでのインターンシップを通して、思いやりを持って社会や自分と全力で向き合う方々と日常的に出会わせていただきました。今では、そういった方々の存在が私の原動力になっています。そして沢山のキラキラした景色を栃木県で見せてくださったこと、本当に感謝しています。これからもずっと応援しています！

宇都宮大学 地域デザイン科学部
鈴木 千夏（すずき ちなつ）さん

賛助団体・企業

株式会社エンターテイン

企業の社内新規事業、スタートアップ・地域の独立起業家に伴走する、次世代の事業創造支援プログラムを提供している

株式会社キッズコーポレーション

幼児教育の専門家が集まり、常に「子どもにとって真に必要な教育とは何か」をモットーに企業や病院内に保育園を普及させる事業等を全国的に展開している

株式会社セレクティ

機械、IT、電気電子の分野で様々な業界の企画、研究、設計開発、製造及び販売を行う専門エンジニアリング企業

株式会社ファンテクノロジー

機械、IT、電気電子の分野で様々な業界の企画、研究、設計開発、製造及び販売を行う専門エンジニアリング企業

社会保険労務士法人 村上事務所

通常の人事業務だけではなく、コンサルタントのできる社労士事務所。経営者の見方をする社労士としてサービスを展開している

一般社団法人えんがお

子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず全ての人が日常的に関わる「ごちゃまぜ」の力で、あらゆる社会課題の予防と解消を目指している

企業組合とちぎ労働福祉事業団（こらぼワーク）

障がい者や高齢者の働く機会を作り出す「協同労働」の考えをベースに、それぞれが働きやすい環境を生み出す協同チーム

iDEA▶NEXT2022 協賛・寄付

栃木銀行

株式会社フォレストーリー

株式会社 PLAYWORK

株式会社リアンコーポレーション

株式会社ワークエントリー

つばめソリューション株式会社

菜の花動物病院

認定 NPO 法人チャレンジド・コミュニティ

有限会社コーチ精機

光琳寺 & aret［アレット］

挑戦者の作業スペースとして
aret［アレット］をお貸しいただきました

その他、38 名から
個人寄付をいただきました

会計報告

活動計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで　（単位：円）

Ⅰ 経常収益	収益部門	非収益部門	
1　受取会費	0	570,000	
2　受け取り寄付金・協賛金	21,164	1,264,361	
3　受取助成金等	1,539,802		
4　自主事業収益	8,175,320	5,710	
5　委託事業収益	27,899,050	0	
6　その他収益	1,130,400	62,092	
経常収益計	38,765,736	1,902,163	40,667,899

Ⅱ 経常費用	収益部門	非収益部門	
1　事業費			
①人件費	19,480,185	1,857,080	
②その他経費	17,560,631	860,731	
2　管理費			
①人件費	457,440	22,560	
②その他経費	894,908	44,139	
経常費用計	38,393,164	2,784,510	41,117,674
当期経常増減額	372,572	- 882,347	- 509,775
法人税等			120,700
当期正味財産増減額			- 630,475
前期繰越正味財産額			6,299,116
次期繰越正味財産額			5,668,641

貸借対照表

2023年3月31日現在　（単位：円）

Ⅰ 資産の部		
1　流動資産	25,041,483	
2　固定資産	0	
資産の部合計		25,041,483
Ⅱ 負債の部		
1　流動負債	14,332,842	
2　固定負債	5,040,000	
負債の部合計		19,372,842
Ⅲ 正味財産の部		
1　正味財産	5,668,641	
正味財産の部合計		5,668,641
負債・正味財産の部合計		25,041,483

ご協力のお願い

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワークは、2008 年の立ち上げ当初から若者と関わり続け、今では年間 3,000 人以上の若者と新しい力を必要としている現場を繋ぎ、価値創出を支えています。目標や志を持ってチャレンジする若者にとって、『期待して応援し続けてくれる人たち』の存在が困難に立ち向かうための原動力になります。若者を見守り応援する仲間として、今できる形での参画をお待ちしております。

会員になる

当会の趣旨に賛同し、若者が活躍する未来を共に創ってくださる会員を募集します。団体運営にご参画いただける方は『運営会員』、活動を応援してくださる方は『賛助会員』としてご参加ください。

運営会員

- 総会での議決権あり
- 定期開催される『事業進捗報告会』にもご参加いただけます
- 個人 5,000 円 / 年

賛助会員

- 総会での議決権なし
- 個人 一口 5,000 円 / 年
- 団体 A 一口 100,000 円 / 年
- 団体 B 一口 50,000 円 / 年
- 団体 C 一口 10,000 円 / 年

応援

よろしくお願いします

協賛・寄付する

皆様のご寄付が、未来をつくる若者のチャレンジを支えます。単発でのご寄付、毎月のご寄付を受け付けております。また、栃木県の魅力的なヒト・コト・モノ・シゴトについて発信するローカルメディア『あしかもメディア』の協賛も募集しています。協賛いただきましたら、あしかもメディアの WEB サイト内に団体・企業様のロゴを掲載いたします。その他、読み終えた本のご寄付や活動を支えるボランティアも受け付けております。詳しくは公式 HP をご覧ください。

＼＼ 寄付・入会の手続き方法が変更になりました ／／

2022年6月より、当会へのご寄付・ご協賛・ご入会は、プラットフォーム『Syncable（シンカブル）』または当会事務所『aret』にて受け付けております。大変恐れ入りますが、会員更新手続きがお済みではない会員の皆様は、更新の手続きをお願いいたします。右の QR コードを読み取ると、当会の応援ページならびに更新手続きのページに遷移いたします。

若者の力を活かして
地域の課題解決 / 活性化を
加速させる

Tochigi Youth Supporters Network

NPO 法人とちぎユースサポーターズネットワーク
〒320-0862 栃木県宇都宮市西原 1-3-4 áret 1F
https://www.tochigi-ysn.net

028-612-1575
ysn_office@tochigi-ysn.net
@mjq9564b
@youth_tochigi
https://www.facebook.com/tochigiysn